



Collaboration Report

vol.10

セルプあいら × コープ九州 × 生活の木 ＝ 社会参画と収益を両立する“ウェルフェアトレード”

福祉とビジネスをつなぐ生活の木の「ウェルフェアトレード」。2009年に、東京の福祉施設に石けん工房「ハンドメイドギルド」を立ち上げ「ウェルフェアトレードソープ」の製造をスタートしました。今回は、3施設目として石けん製造に携わる鹿児島県始良市の福祉施設「セルプあいら」、ウェルフェアトレードソープを販売する「コープ九州」との座談会です。

出会ったその日に現地視察
活路が拓けた運命の瞬間

平川 羽月さんとお会いするのは、「セルプあいら」でのウェルフェアトレードの取り組みを始めて以来なので、6年ぶりですね。いまはこうしてコープ九州さんという頼もしいパートナーと出会うことができましたが、当初は、この苦労も多かったのではないのでしょうか。

羽月 そうですね。「セルプあいら」は授産施設とあって、心身に障がいを持ち、一般企業に勤めるのが難しい方が自立を目指して働く場所です。開設時は「廃油石けん」をつくっていたのですが、鹿児島島の授産施設協議会から「ホテルに置く化粧石けんをつくりたい。香りでそのホテルだと分かるオリジナル製品をつくってほしい」と依頼があったんです。

平川 化粧用石けんとなると、廃油石けんとは異なり、化粧品製造業許可が必要になりますよね。

羽月 ええ、何事も挑戦だと試作を重ねてみたのですが、石けん工房をつくるためには施設をリフォームしなくてはいけないし、化粧品製造業許可を取得するノウハウもなければ、石けん製造の専門的な知識もない。うちの施設ではできないと思って断ろうとしたときに、仲介業者の方が生活の木のウェルフェアトレードを紹介してくださったんです。

平川 それがきっかけで弊社の専務取締役・宇田川と会われたんですね。

羽月 ええ、その出会いは衝撃的でした。

生活協同組合連合会コ
ープ九州事業連合
企画担当
渡邊誠さん

生活協同組合連合会
コープ九州事業連合
商品担当
鹿子島文子さん

社会福祉法人ほのぼのの会
障害福祉サービス事業所
セルプあいら
サービス管理責任者
羽月賢治さん

生活の木
マーケティング本部
企画・開発DIV
マネージャー
平川知子さん



た。東京にある企業の役員の方が、鹿
児島まで来てくださるなんて。最初は
お話だけかと思っていたのですが、「い
まから施設を見に行きませんか？」と
言ってくれました。実際、内心
では「えらいことになったぞ」と大混
乱でした。何しろ開設したばかりの小
さな小さな施設です。それなのに専務
はひと通り施設を「ご覧になると、「こ
の部屋だったらできますよ」とすぐに
段取りを決めてくださったんです。
平川 羽月さんの情熱が伝わり、即行
動につながったのだと思います。
**表情、言葉、モチベーション
利用者に起きた驚きの変化**
羽月 化粧品製造業許可を取得し、石
けん製造開始に至るまでは、何度も生
活の木からスタッフの方が来てくださ
いました。おかげでスムーズに開設準
備を進められました。こんなにとんと
ん拍子で話が進むなんて夢のようでし
たね。しかも石けん製造に携われない
人のために、なんとラベルに絵を描く
仕事まで用意してあるじゃないです
か。これには感動させられました。
平川 ほかの施設の成功例が活きてい
るんです。できる人だけ、ではなく、
全員が関わってひとつの商品をつくる
からこそ意味があるんじゃないかと。
その後、利用者みなさんに何か変化
がありましたか。
羽月 それはもう、驚くほどの就労意
欲なんです。新しく注文が来るだけ
も、みんなで大喜びしているんです。
以前、コープ九州さんのカタログでこ

紹介ただのがきつかけで大量の発注
書が届いたときは施設全体が盛り上
りました。これはうれしかったですね。
製造担当もラベル担当も工房のテー
ブルに並んで、「これはどこの誰に届く
のかな」「これをみんなが使うんだよ
ね」「がんばってみんなで作ろうね」
といきいきしていましたね。そのエネ
ルギー源は「社会への関わり」の実感
なんです。自分たちがつくった石けん
が、誰かに使われ、役に立っている。
鹿児島の老舗百貨店「山形屋」に商品
として並んでいる。自分たちは、社会
の一員として存在している。それが自
信になり、「もっと働きたい」という
気持ちにつながっているんです。
平川 みなさんの世界が広がったので
すね。
羽月 ええ。実は、利用者みなさん
に共通しているのが人とのコミュニケ
ーションが苦手、自分に自信がない
こと。コンプレックスもたくさん抱え

ていることでしょうか。いまは、施設内
で顔見知りばかりなので明るく過こせ
ていても、知らない場所にひとり出
たときにどうなるか、と考えてしま
います。だから、このチャンスを活かし
て、いまのうちにもっと社会との接点
を増やしていかなければと思います。
**取材を機に自分を解放
大変身を遂げた女性**
鹿子島 私が初めてセルプあいらを訪
ねたとき、そこで働く利用者みなさ
んとお会いして、すぐに取り引きをし
たいと思いました。商品もすくしい
し、何よりつくり手の思いが込められ
ているでしょう？ この石けんなら生
協の組合員の方に必ず喜んでもらえる
と確信しましたね。
渡邊 企画部長だった私も視察のとき
にウェルフェアトレードの考え方に強
く共感し、生協のカタログで何かでき
ないかと考えました。商品供給が事業

ウェルフェアトレードとは...



石けん製造に携われない方々は商品のラベルイラストを
描き、世界でひとつだけの石けんができてあがる

福祉をビジネスに高める挑戦

生活の木の業態「ハンドメイドギルド」。ここでは、化粧品製造業認可の工場を店舗に併設し、石けんなどの化粧品を製造しています。生活の木は、このノウハウを全国3か所の障害者援助施設に提供し、ハンドメイドギルドを設置。福祉施設利用者の方々による、石けんづくりをサポートしています。市場でも評価されるグレードの高い石けんを製造することで、社会参画と高収益を両立させるビジネスモデルです。

“ 社会の一員として存在している。
それが自信になり、
働く喜びを感じられるのです ”



**障害福祉
サービス事業所
セルフあいら**

鹿児島県始良市豊留9
TEL 0995-66-3469
hatsuki@estate.ocn.ne.jp

の柱である私たちにとって、カタログは売り場そのもの。スペースを割くにコストはかかりますが、組合員の方たちにこの商品の背景をしっかりと伝えたいと思ったんです。

平川 そのときのお客さまの反応はいかがでしたか。

渡邊 発行から2カ月後に、お客様から「芳樟も柚子もいい香りで、肌にやさしい石けんでした。ぜひ組合員の方々も使われることをおすすめします。定期的にカタログにのせてください」という声が届きました。化粧品などは食品に比べると反響が届きにくい部門なのですが、こういった感想が届いたのは大きな成果ですね。

羽月 お客さまから喜びの声をいただいたと、製造しているみんなのモチベーションがさらに上がります。

鹿子島 たとえば、ウエルフェアトレードソープの紹介ページで商品を持って撮影に協力いただいた女性、まったく表情が変わりましたよね。最初にお会いしたときは内気な様子でしたが、一年後に取材でお会いしたときは化粧もきれいに、明るく話しかけてくださるようになっていました。

渡邊 私もよく覚えていますが、それで写真撮影はNGだったそうですが、羽月さんが「本当にいいの？」と何度も聞きながらカメラのシャッターを押していたのが印象に残っています。それほど、彼女の内面に大きな変化が起きたんですね。

羽月 はい。精神障がいを持つ方は特に、写真や実名を公にするのに抵抗が

ある方が多いんです。施設の広報や商品PRのとき、彼女からは写真撮影の許可がもらえなかったんですが、コープ九州さんの取材で初めてOKができました。この取材をきっかけにどんどん明るくなって、先日は地元の新聞取材も受けていました。それほど、自分をオープンにできるようになったんだと思います。

**豊かな未来を目指し
広がる支援の輪**

鹿子島 コープ九州では今後もウエルフェアトレードの品ぞろえを増やして、シリーズ展開をするといったことも考えていきたいですね。まずは継続

して商品を取り扱っていくことで、いつか思ってもみないような大きな変化が生まれるような気がしています。

渡邊 いままで、コープ九州では商品供給で収益を出し、福祉や平和への活動につながる取り組みをしてきました。今回のウエルフェアトレードソープは「商品供給そのもの」が福祉活動のサポートにつながります。組合員の方は購入することで、間接的に支援できる。互いに負担がなく、暮らしが豊かになっていく。こんな好循環を生む仕組みがもつと社会に広がればいいですね。そのためには、とだけこの商品に価値を感じていただけるとは勝負です。しかし、十分戦える商品力があ

“ ウェルフェアトレードの取り組みが
社会全体に広がることを期待します ”



“ 継続していくことで
わたしたちの想像を超える
大きな変化が生まれる気がします ”



ると確信しています。

鹿子島 たとえば店頭で直接、説明ができればこの石けんがどうやってつくられていてどんな魅力があるかをお伝えできます。しかし、カタログでは紙面上でなんとかお伝えしなければいけません。その難しさを実感しています。

平川 生活の木の店舗でも、こうした取り組みを地道にご紹介し、商品の背景をお伝えすることで、初めてお客さまに商品の魅力や真意が伝わると考えています。新しいことを始めるのも大切ですが、継続することがこのような取り組みでは大切だと思っています。

羽月 福祉業界では「ウエルフェアト

レード」を発信する機会が増えています。平成28年8月には地元の授産施設に向けて「工賃アップセミナー」を開き、約70人が集まりました。その年の11月にも長崎で開催された「授産施設協議会」の九州大会で、ウエルフェアトレードソープの取り組みを総勢100人の前で発表しました。

羽月 こうしてコープ九州さんや生活の木さんと取り引きができ、うまくいっている理由はまさに「継続」だと考えます。利用者のみなさんはすぐには仕事を覚えられなくても続けることで前進している。これからも企業や商品を買ってくださる方々、社会との関わ

りを大切に紡いでいけたらと思います。

渡邊 もし、この理念を個人で持っているだけでは人事異動があった場合に次につなげられない。現実的には、販売数が少ない商品はカットして、新商品を入れるというのが商売のセオリーですが、ウエルフェアトレードソープについてはその枠外にあると伝え、この意志をつなげていきます。

鹿子島 私たちができることは微力ですが、施設利用者のみなさんが明るく楽しく、社会に進出していただけるお手伝いできればと思います。みなさんにとっては仕事が増えて忙しくなるかも

りませんが、それくらいの供給を生み出したいですね。

羽月 私たちは社会福祉法人として利益を出すことが目的ではありませんが、一方で就労場所として利用者の工賃アップを求められています。しかし、一般企業とは違って受注できる仕事に限りがある。精神的にも、金銭的にも社会との関わりが欠かせません。これからもみなさんと共に歩んでいけたらと思います。

平川 ありがとうございます。こちらこそ、よろしく願います。継続することで、この取り組みが社会全体に広がることを期待します。



生活協同組合連合会
コープ九州事業連合

福岡県糟屋郡篠栗町篠栗4826-1
TEL 092-947-9500
<http://www.kyushu.coop>
<http://www.coop-weblabo.jp>

“ この商品は供給そのものが
福祉活動のサポートに
つながっています ”

